

デジタル庁HPの「自治体・自治体システムベンダー向けの情報」（2025/1/28時点）
の関連資料を一部編集（仕様の内容は同様）

① 【PMH】自治体ベンダー向け資料

本紙の目的

- PMHに接続するために必要な自治体システム改修の概要をまとめた資料。
- 自治体システムベンダーの皆様向けに**本資料とは別紙でPMHの各種仕様書を提供するため、自治体の皆様から改修を依頼する際にご活用ください。**
- なお、現在、デジタル庁HPで公開している説明資料をベースにしているため、令和6年度PMH（医療費助成）先行実施事業のみを想定した資料は網掛け・参考としている点に御留意ください。

自治体・医療機関等をつなぐ情報連携システム（Public Medical Hub：PMH）

自治体・自治体システムベンダー向けの情報

PMH（医療費助成）に接続するために必要な仕様等の情報を掲載しています。

- 説明資料（ZIP／15,619KB）（2024年11月7日更新） ←本資料はこちらを編集
- ファイル設計書（ZIP／1,615KB）（2024年10月24日更新）
- API設計書（ZIP／15,076KB）（2025年1月23日更新）
- エラーコード一覧（Excel／44KB）

API連携バッチを活用する場合は以下をご確認ください。

- API連携バッチ処理仕様書（PDF／383KB）（2024年10月1日更新）
- API連携バッチ設定手順書（PDF／2,033KB）

Contents

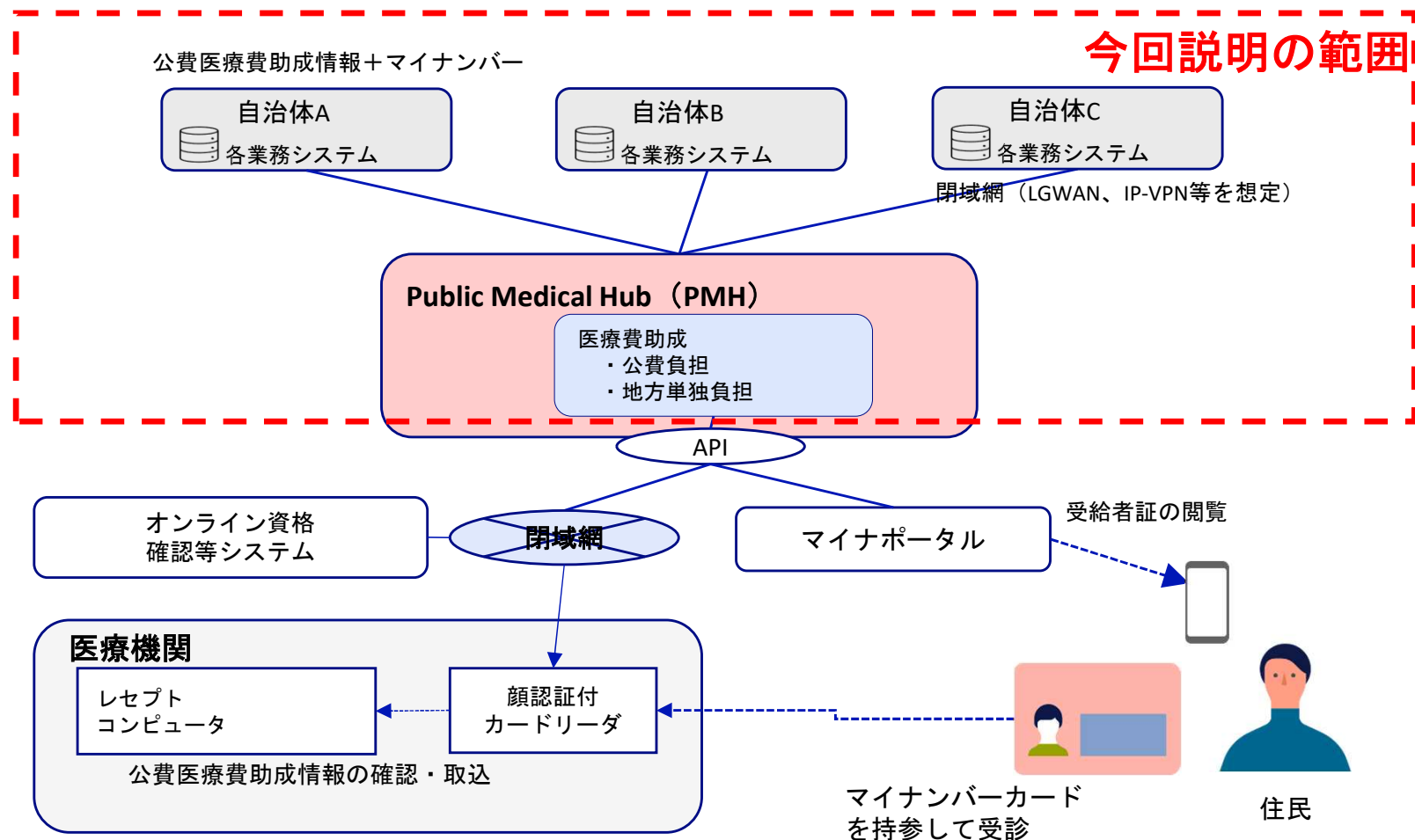
- 医療費助成
 - 自治体ベンダ向け仕様
 - スケジュール
 - 医療費助成連携用API一覧

Contents

- 医療費助成
 - 自治体ベンダ向け仕様
 - スケジュール
 - 医療費助成連携用API一覧

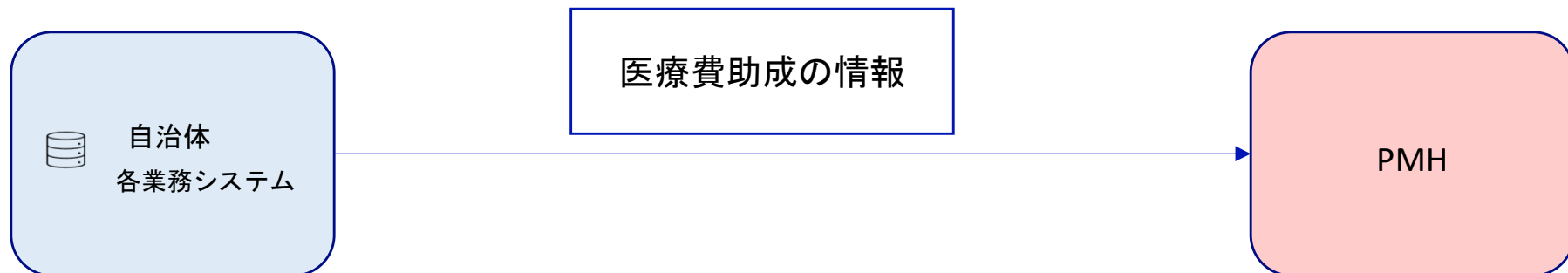
サービス概要図と今回説明の範囲

PMHは医療費助成の受給者証の情報を自治体から医療機関/対象者に渡すためのサービス。
今回は自治体の各業務システムから医療費助成に係る情報連携についてご説明。



改修により追加いただきたい機能

医療費助成の情報を定期的（1回/日）にアップロードいただく



医療費助成の情報

おおまかに 3 種類の情報を登録いただきます

1. 対象者個人に係る情報
2. 受給者証情報のうち、レセコンへ転記している情報項目
3. 受給者証の券面情報をすべて登録するために用いる項目

令和6年度における新規追加、および変更予定の項目等は次頁を参照

【不開示フラグ】とは

- ・ 対象者の情報を不開示にするかを表す。
- ・ DVフラグ（支援措置区分）に変わるフラグで、より広い意味での活用を想定したフラグとする。
- ・ 業務システム上で管理項目を増やすことを必須としていません。

対象者個人に係る情報

マイナンバー
氏名
氏名カナ
年齢
生年月日
住所
不開示フラグ

レセコン転記項目

公費負担者番号
受給者番号
...
指定医療機関情報
自己負担上限額
種別
負担定義
負担率（日）
負担率（月）
負担率（回）
金額（日）
...
有効期間-始期
有効期間-終期

受給者証券面項目

受給者証名
公費負担者番号
...
疾病名
指定医療機関名
...

令和6年度における改修予定項目

更新

#	改修予定内容	令和5年度仕様からの改修内容	令和5年度改修済みベンダ様の対応
1	差分履歴連携 (P20を参照)	- 令和5年度では医療費助成の情報を日次で全件連携する方式のみを提供していたが、令和6年度では受給者証の 情報に登録・更新・削除が発生した際に、受給者証に関する情報をすべて連携頂き、PMHはそれらを履歴として管理する差分履歴連携方式を提供する予定。 - 受給者証は、個人番号（マイナンバー）、公費受給者証番号、受給者証サブキー(R6年度新設)で特定する。 - 履歴情報の最新をPMHで判断するために、履歴キー(R6年度新設項目)を付加して連携頂く。	- 差分履歴連携に対応される場合は、左記「令和5年度仕様からの改修内容」と同様に対応が必要となる。 - 差分履歴連携に対応されない場合は、令和5年度で対応頂いた全件連携を引き続きご利用することも可能（その際、本対応は不要）
2	項目追加等	新たに追加される国公費・地単公費に対応するため、令和5年度の既存項目に追加する新しい項目追加を行う <自己負担上限額の種別> - 新規コードとして訪問看護/柔整/あはきを追加 - 自己負担上限額が入外合算か否かを判断可能とする <その他の項目追加> 以下の項目を追加 - 対象者の所得区分、追加条件(※詳細は「ファイル設計書項目説明」を参照) - 償還払いの有無、償還払い条件の有無 - 自己負担上限額に対する初診時の条件 - 食事療養費の患者負担、負担上限額 <自治体運用負荷軽減> - PMH制度関連マスタの追加 ※詳細は「【PMH】制度関連マスタ説明資料」を参照のこと	個別相談ください 令和5年度の連携方式を利用した場合は、PMH内での読み替えだけで対応できる場合はそのまま運用可能です

令和6年度先行実施向けの説明のためご参考

※連携項目のイメージは別紙「PMH仕様書」を参照のこと

※6月上旬に提示した内容から自己負担上限額種別の改修内容を変更。具体的な変更点は「PMH仕様書」を参照のこと。

実現方法

自治体/ベンダの様々なニーズを想定したバリエーションを用意
→ 状況に合わせた最適な実装方法を選択できます

- 自治体システムの改修方法
- PMHまでの経路

自治体システムの改修方法

改修に必要なリソース/実装のむずかしさに応じて以下の改修方法が選択可能

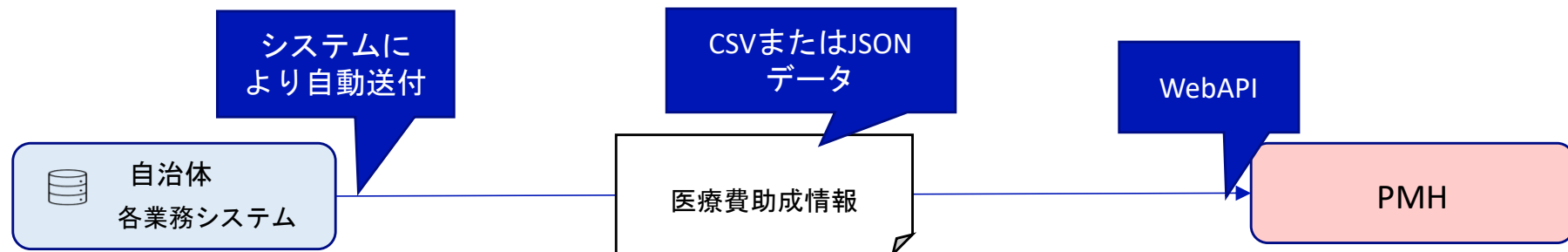
#	自治体システムの改修方法	改修コスト	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
1	CSV/JSONの自動API連携（推奨）	△	○	○
2	CSV/JSONファイル出力 （＋デジ庁提供のAPI連携バッチ処理の利用）	○	○	△
3	CSVファイル出力※ （＋手動連携）	○	△	○
4	CSVファイル出力（＋R P A連携）	○	○	△

※CSVファイルの手動編集を連携前に実施する方法でも実現は可能です

#1 CSV/JSONの自動API連携（推奨）

CSVまたはJSONデータを、PMHのWeb APIに対してシステムより送付

- 1) 自治体システム間データ連携（マイナンバー/不開示フラグ等が当該システム内にある場合）
- 2) データレイアウトを調整
- 3) PMHのWeb APIに対して送付する



R5では5自治体中、3自治体は本連携方式
※デジタル庁より標準ライブラリを利用する方法など、
設計方法について個別に相談に乗ることは可能です。

改修コスト	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
△ 送付処理もシステム上に実装いただく	○ 自動連携のため正常時の手動運用なし	○ 保守するシステムは現状同等

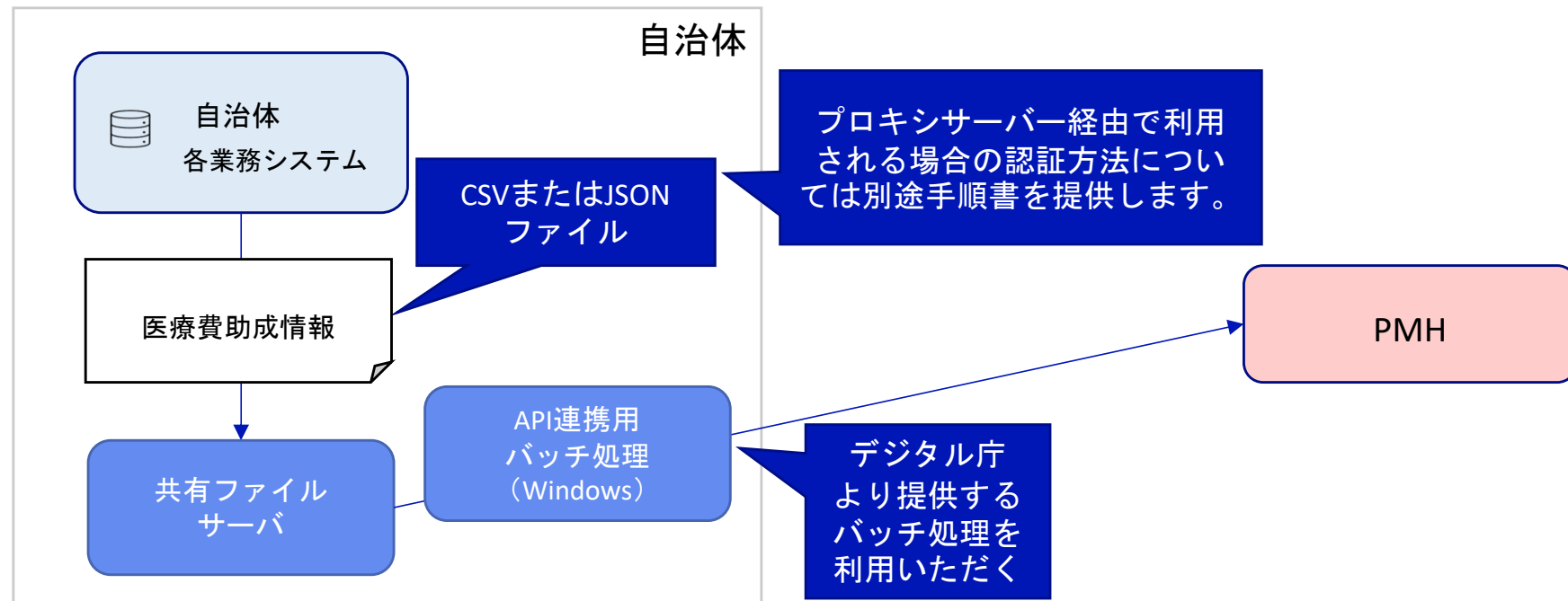
#2 CSV/JSONファイル出力

（＋デジタル庁提供のAPI連携バッチ処理の利用）

Web APIを利用することが難しい場合、API連携バッチ処理を提供します。

- 1) 自治体システム間データ連携（マイナンバー/不開示フラグ等が当該システム内にない場合）
- 2) データレイアウトを調整
- 3) 共有ファイルサーバにファイル出力
- 4) （ファイル連携用バッチ処理を利用して送信）

※本方式で対応する場合は、別紙「API連携バッチ処理手順書」に則り導入いただくことになります

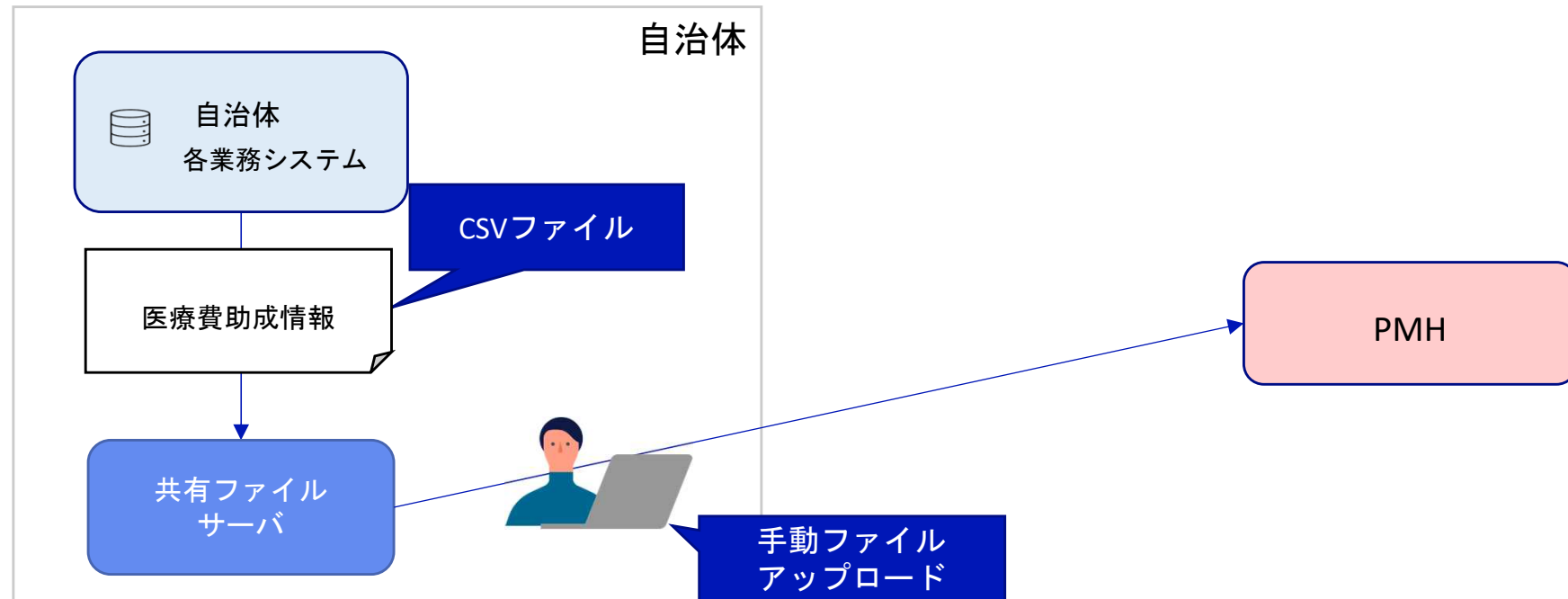


改修コスト	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ 連携は提供した処理を利用する	○ 自動連携のため正常時の手動運用なし	△ バッチ処理の運用が必要

#3 CSVファイル出力（＋手動連携）

自動連携が難しい場合、手動連携も可能です

- 1) 自治体システム間データ連携（マイナンバー/不開示フラグ等が当該システム内にはない場合）
- 2) データレイアウトを調整
- 3) 共有ファイルサーバにファイル出力
- 4) （PMH画面にアクセスして手動アップロード）



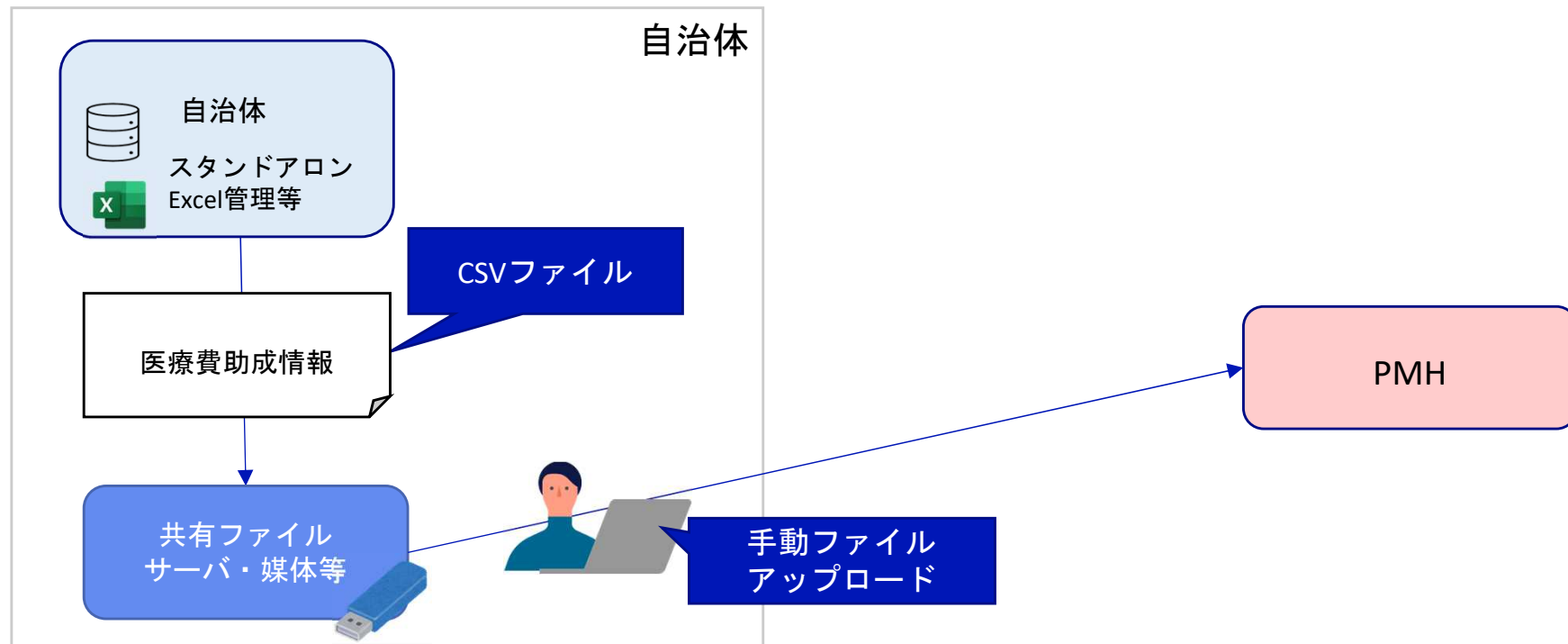
改修コスト	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ 連携処理は不要	△ 手動での連携が必要	○ 保守するシステムは現状同等

自治体システムの改修方法

CSVファイルの手動編集を連携前に実施する方法

システム化されていないなど、CSVファイルを手動編集する方法も可能です

- 1) 受給者情報に不足データを追加（マイナンバー/不開示フラグ等）
- 2) データレイアウトを調整してCSVで出力
- 3) 媒体等で移行
- 4) LGWAN環境からPMH画面にアクセスして手動アップロード



改修コスト	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ 連携処理は不要	△ 手動での連携が必要	○ ほぼ既存システムで実現可能

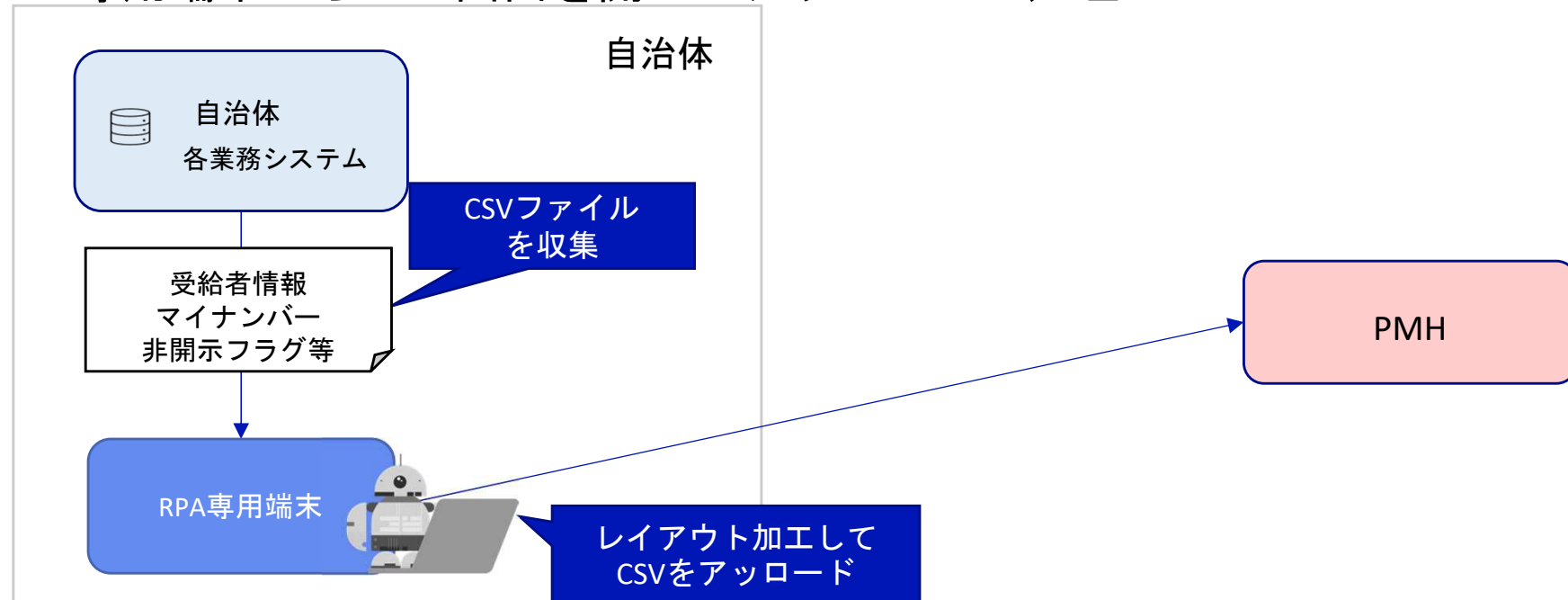
#4 CSVファイル出力（＋RPA連携）

※ 自治体から提案のあった内容

RPAを活用した手動連携の自動化も可能です

（番号系にRPA専用端末を設置し、LGWANにアクセスできるようネットワーク設定されている場合の例）

- 1) RPA専用端末からバッチ処理やEUC機能を利用する等により受給者情報等を収集
- 2) RPA専用端末でPMH連携用データにレイアウト加工
- 3) RPA専用端末からPMH画面を開いてアップロード処理



改修コスト	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ バッチ処理やEUCがあれば活用可能	○ 自動連携のため正常時の手動運用なし	△ RPAの保守が必要

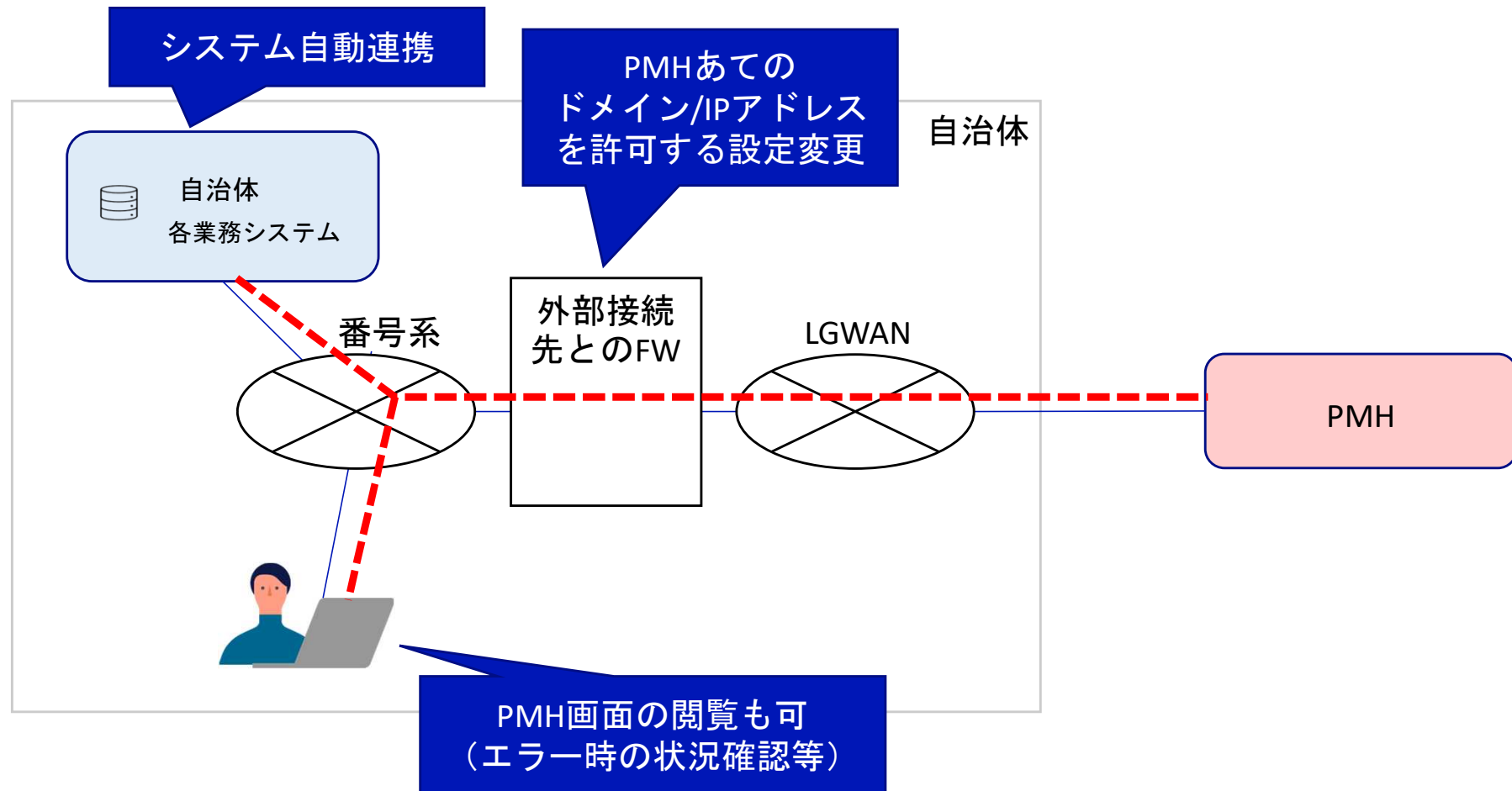
PMHまでの経路

PMHはLGWANから接続できます
ポリシー/改修コスト等の状況に合わせて接続経路が選択可能です。

#	PMHまでの経路	改修コスト	自治体の運用の手間
1	既存ネットワーク設定変更により疎通（推奨）	○	○
2	VPN等で新たにPMHと接続	△	○
3	USBメモリ等で連携（手動連携のみ）	○	△

#1 既存ネットワーク設定変更により疎通

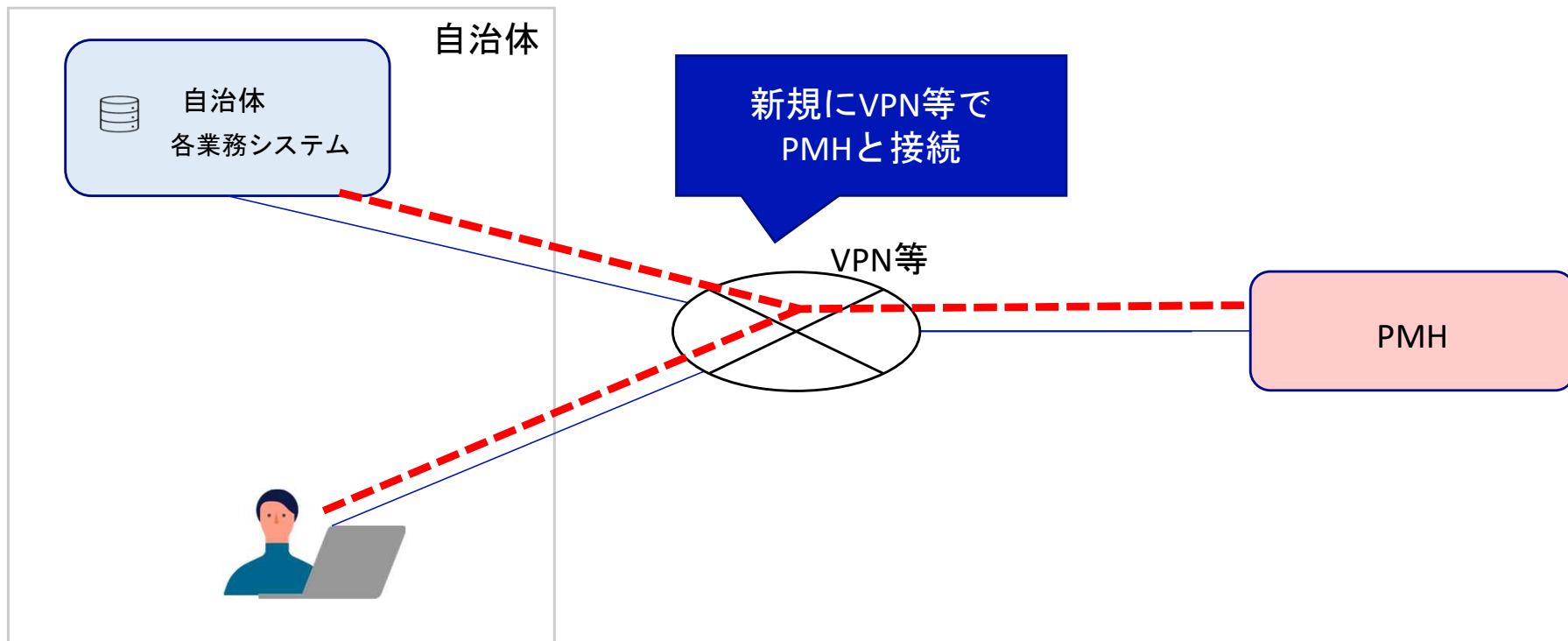
番号系からLGWAN経由でPMHにアクセスできるようにネットワーク設定変更



#2 VPN等で新たにPMHと接続

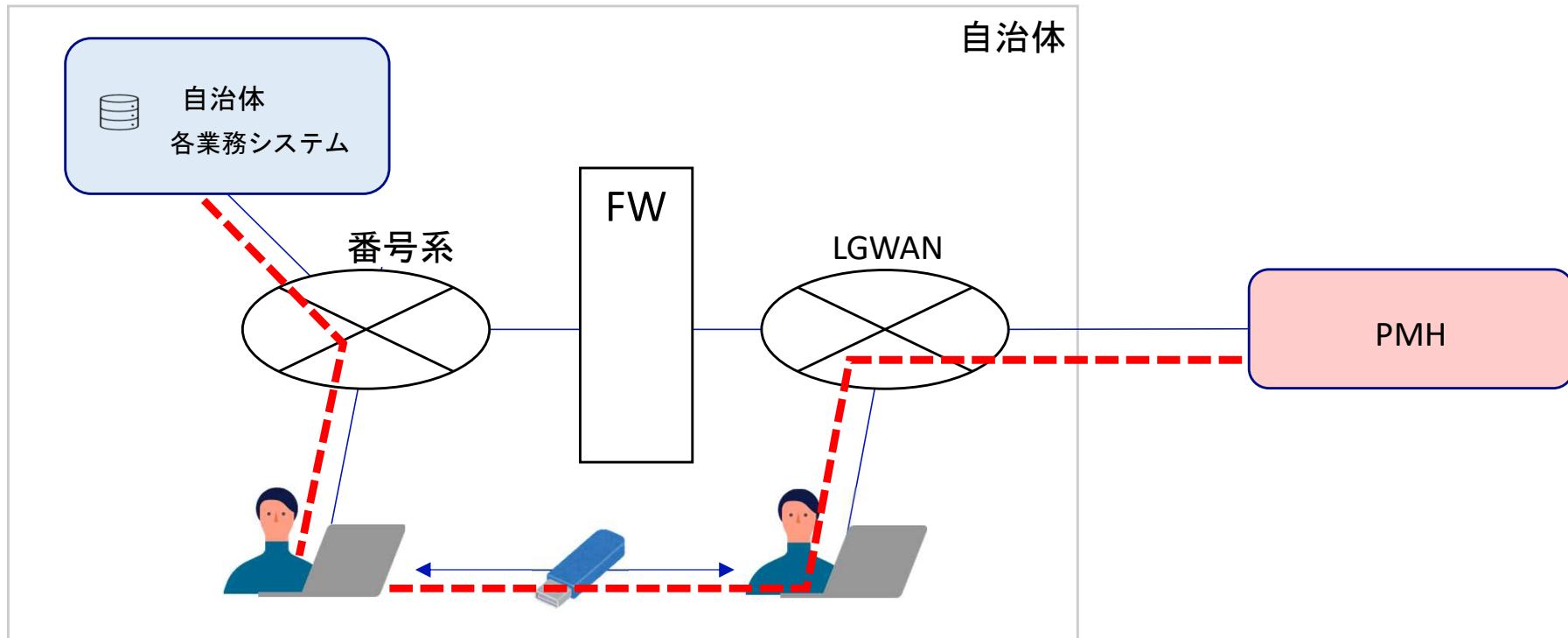
PMHまでの経路

自治体のポリシー上LGWAN経由接続不可の場合でも、個別にVPN等での接続について相談可能です



#3 USBメモリ等で連携（手動連携のみ）

ネットワーク設定変更がどうしても難しい場合、
USBメモリ等での連携も選択可能です。



更新

データ連携方式(差分履歴連携/全件連携)

システム性能や住民数等に応じてデータ連携方式が選択可能です

#	連携方針		差分履歴連携（推奨）	全件連携
1	連携概要		受給者証の情報について、自治体システムで登録および更新が発生した際に受給者証単位で差分連携	受給者証の情報について、有効な情報を自治体システムが選定し、その情報を全件を連携
2	改修コスト		△	○
3	ソフトウェア保守コスト（性能等）		○	△
4	連携頻度		1回/1日	1回/1日
5	連携単位		受給者証単位(※) でその受給者証に含まれるすべての情報 ※個人番号（マイナンバー）、公費受給者証番号、受給者証サブキー(R6年度新設)を受給者証を一意に特定する	自治体システム内 で保持する有効な受給者証のデータを全件
6	PMHのI/F仕様 （自治体システムから連携された受給者証のデータに基づいてPMHが取り得る振る舞い）	登録	自治体システムにて登録された受給者証の情報をPMHが履歴情報として取り込む	自治体システムから連携された受給者証の情報で洗い替えを行う。 ※自治体システムから連携されなくなった受給者証の情報は削除されたと見做す
6		更新	自治体システムにて更新された受給者証の情報をPMHが履歴情報として取り込む	
7		削除	自治体システムにて削除された受給者証の情報に対して削除フラグを付与して連携頂き、PMHは履歴情報として取り込む	
8	その他特別な考慮		公費受給者証番号にて受給者証を一意に特定できない場合(公費受給者証番号にて複数の受給者証を管理されている)は、受給者証サブキー(R6年度新設)を付番いただく。	特になし

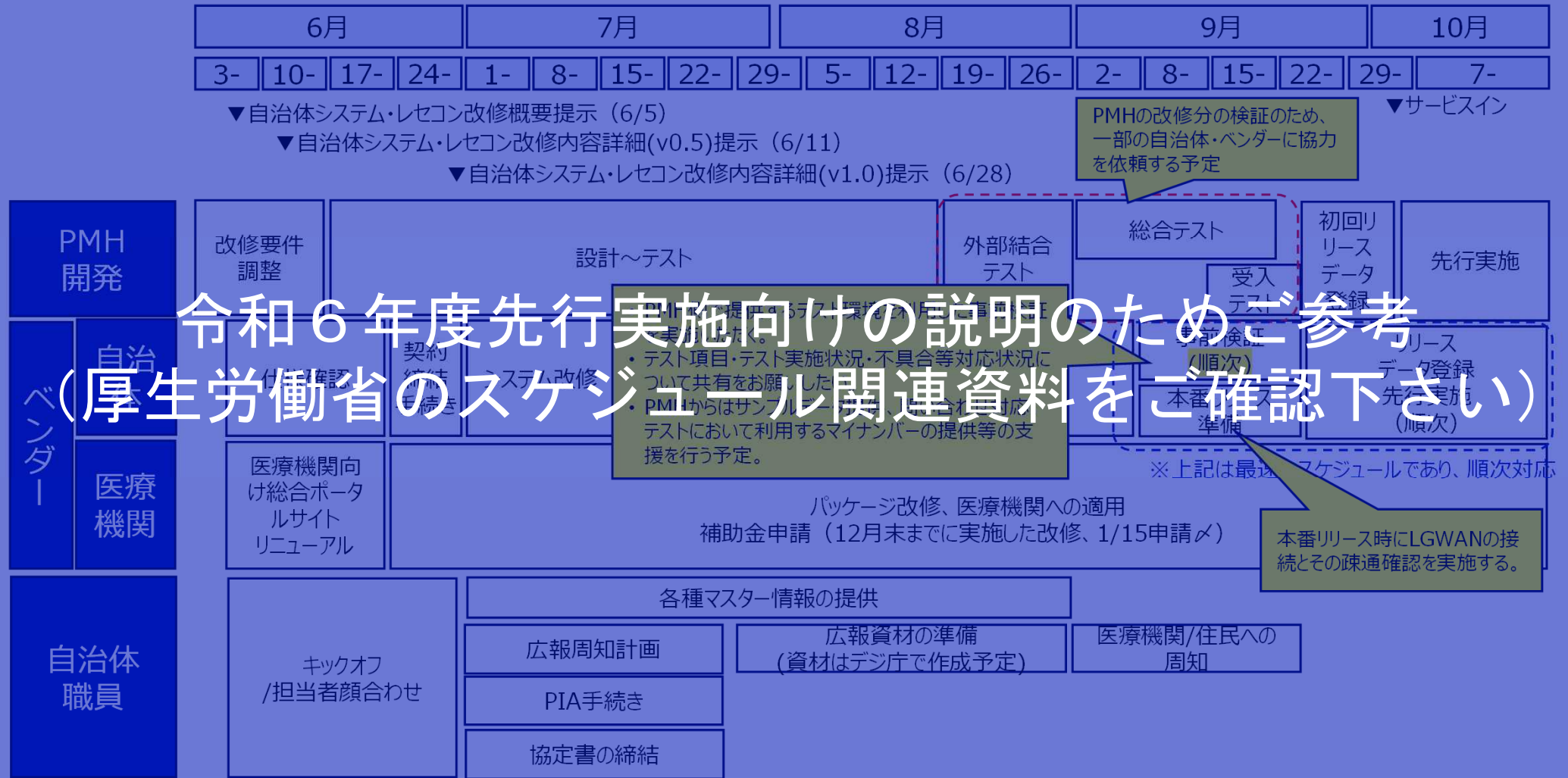
Contents

- 医療費助成
 - 自治体ベンダ向け仕様
 - スケジュール
 - 医療費助成連携用API一覧
 - 別添資料の構成

令和6年度先行実施向けの説明のためご参考

スケジュール（現時点の想定）

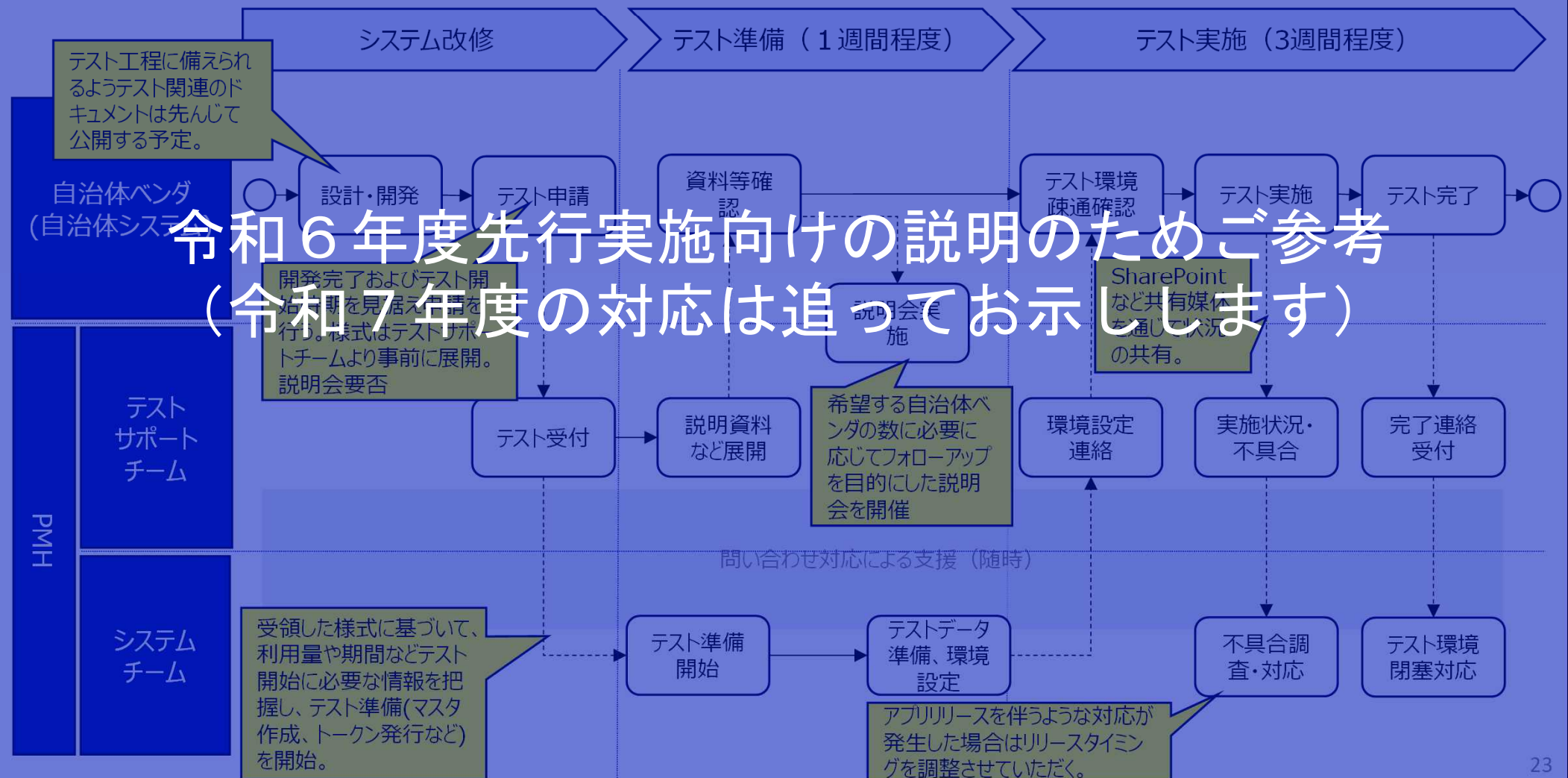
※実施スケジュールは別途ご案内する予定です。



※ 日程感を共有することを目的とした現時点のスケジュール案であり、今後変更する可能性があります。

事前検証の流れ

- 事前検証はR6年度9月、10月、11月、12月、1月の計5つのスロット枠を用意する予定。（各スロットは下図フローの通り進めていく予定）
- 自治体ベンダ様はシステム改修の事情に応じて、どのスロットで事前検証を行うか選択頂く。
- テスト申請の時期については2週間前程度(9月スロットの場合は8月中旬)を想定しているが、詳細は決まり次第アナウンスする予定。



テスト環境へのアクセス

令和6年度のテスト環境は下記を提供いたします。

①LGWAN経由（各自治体の拠点から実施する方法）

NW疎通試験を実施したうえで、テストを実施いただきます。

②インターネット経由（PMH側でNLBを作成）

令和6年度先行実施向けの説明のためご参考
（令和7年度の対応は追ってお示しします）
PMH側に既存ALBの前（インターネット）接続が可能なNLBを構築し、ベンダーからのHTTPS
リクエストを受ける

※①②の対応が困難な場合にはご相談ください。

テスト種類と実施内容（事前検証（自治体ベンダー様主体のテスト））

PMHにて用意したテスト環境を自治体ベンダー様が利用し、自治体の業務が想定通り実施できることを事前検証として、自治体ベンダー様主体にて検証して頂きます。

	概要	参加頂く自治体ベンダー様		実施内容	主体
		R5から 継続で実証	R6から 新規実証		
自治体ベンダー様主体	事前検証	自治体の業務が 想定通り実施できる ことを検証	—*1	自治体ベンダー様が利用するテスト環境を構築し、提供を行う。	PMH
				自治体ベンダー様主体でテストを進められるようテストパッケージ(テストシナリオ、実施方法)の提供を行う。	PMH
				テスト環境の接続確認を行い、テストパッケージ通りにテストが開始できるか事前準備を行う。	自治体ベンダー様
				テストを実施し、進捗、課題や不具合を管理する。	自治体ベンダー様
				PMHに起因、もしくは起因する考え得る課題や不具合が生じた場合は、そのテスト内容とともにPMHへ共有いただく。	自治体ベンダー様
				課題や障害の切り分けを行い、適宜対応を行う。対応内容など状況は自治体ベンダー様に共有する。	PMH
				適宜自治体ベンダー様からの問い合わせ対応を行う。	PMH

※1 PMHが用意した環境にてベンダー様主体でテストを実施して頂く。テストに必要なパッケージは提供し、問い合わせ対応でサポートを行う。PMHとしての品質はPMH主体のテスト(次頁記載)により品質を担保する前提。

※2 テストパッケージに含まれない自治体ベンダー様で必要と考えられるテストシナリオは、自治体ベンダー様にて適宜追加などご検討いただく。

テスト種類と実施内容（PMH主体のテスト）

令和6年度で実装した追加機能および令和5年度で開発済みの機能のテストは、令和5年度の実証に参加頂いた自治体ベンダー様に協力頂きPMH主体で進めていきます。

		概要	参加頂く自治体ベンダー様		自治体ベンダー様の対応	PMH側の対応
			R5から 継続で実証	R6から 新規実証		
PMH主体のテスト	外部結合 テスト	I/Fの連携仕様通りに動作することを実証	○*1	—*1	✓ テスト事前準備（接続確認など） ✓ テストデータ作成/データの事前登録 ✓ テストケースに沿ってテスト実行	✓ テスト環境構築 ✓ テストケース作成 ✓ テストデータ検討および提供 ✓ テスト実施管理（進捗、QA）
	総合テスト	PMHに係る業務が想定通り実施できることを検証	○*1	—*1	✓ テスト事前準備（接続確認など） ✓ テストデータ作成/データの事前登録 ✓ テストケースに沿ってテスト実行	✓ テスト環境構築 ✓ テストケース作成 ✓ テストデータ検討および提供 ✓ テスト実施管理（進捗、QA）
	受入テスト	PMHの要件が満たされているか最終確認	△*2	—*1	✓ テスト事前準備（接続確認など） ✓ テストデータ作成/データの事前登録 ✓ テストシナリオ/ケースに沿ってテスト実行	✓ テスト環境構築 ✓ テストシナリオ、ケース作成 ✓ テストデータ検討および提供 ✓ テスト実施管理（進捗、QA）

※1 R5で実証に参加頂いたベンダー様が継続してテストに参加頂き、R5で実装した機能のリグレッション、R6要件の機能追加に係るテストを実施することによりPMHの品質を担保する。（R5として構築した機能は、R5で実証に参加頂いたベンダー様のご協力のもとで各種テストを実施し、品質は担保できている状況）

※2 受入テストにご協力頂く自治体様は個別調整の上で決定する。

Contents

- 医療費助成
 - 自治体ベンダ向け仕様
 - スケジュール
 - 医療費助成連携用API一覧

医療費助成連携用API一覧

連携方式	データ フォーマット	登録用API	結果取得用API
①全件連携	CSV	S00G-E01_医療費助成対象者情報登録API（自治体／CSV）	S00G-E03_医療費助成対象者情報登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	S00G-E02_医療費助成対象者情報登録API（自治体）	S00G-E04_医療費助成対象者情報登録結果取得API（自治体）
②差分履歴連携	CSV	S00G-E05_医療費助成対象者差分履歴情報登録API（自治体／CSV）	S00G-E07_医療費助成対象者差分履歴情報登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	S00G-E06_医療費助成対象者差分履歴情報登録API（自治体）	S00G-E08_医療費助成対象者差分履歴情報登録結果取得API（自治体）
③差分履歴連携（リセット有り）※	CSV	S00G-E11_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録API（自治体／CSV）	S00G-E13_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	S00G-E12_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録API（自治体）	S00G-E14_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録結果取得API（自治体）

※前回までの登録情報をリセット（強制失効）させ、連携された情報を登録するためのAPIです。

通常の医療費助成情報の連携では①、②のいずれかを使用します。

③を使用するケースの例は以下の通りです。

1. 全件連携から差分履歴連携への切替時の初回連携
2. 自治体システムのベンダ変更に伴い、履歴一式のキーである受給者証サブキーや履歴キーの採番方法が変更となった場合の初回連携

デジタル庁

Digital Agency